

# 平成28年度 アクティブ・ラーニング美術教育推進事業

## 目的

- ・郷土の作家や大分に縁のある美術作品を鑑賞することで、郷土の文化の豊かさ、本物のよさを感じ取り、美術作品に対する多様な見方、コミュニケーション能力や表現力、豊かな感性を育成する。
- ・児童が主体的に取り組む鑑賞の授業の充実を目指し、そのモデル事業として3年間実施する。

## I 県立美術館での鑑賞活動の様子

28年度は4年生を中心に、県下全市町村の33校にバスをチャーターし、46学級1053名の児童を県立美術館に招待。児童による主体的で対話的な鑑賞活動を実施しました。

それぞれが自分なりの見方で、思い思いの感想を自由に話し合いました。美術館での様子を紹介します。



美術館に着いたら、サポートスタッフの方との対面。レクチャーで鑑賞のめあてや注意事項を確認します。

展示室では5人程度の班で、スタッフの方と共に鑑賞。近づいたり離れたったりするなど、色々な見方を体験し、感じたことを友だちと自由に交流しました。



鑑賞後の美術館での振り返り。見たこと、心に残ったことを全体で交流しました。

## Ⅱ 美術館での鑑賞後の授業実践や、子どもの変化の報告（例）

美術館での鑑賞の活動を受けての、学校での振り返り、図工の授業の充実、子どもの変容の様子を報告していただきました。

事業に参加してくださった学校の実践の一部を紹介します。

### 1、表現や鑑賞の活動における、子どもの見方、考え方や意欲の変化

#### 報告例1 豊後高田市立桂陽小学校

「コメントマスターになろう」

絵画作品完成後、児童がお互いの作品を鑑賞して、感じたことをコメントし合う実践。

途中まで「何て書いたらいいかわからない。」と言っていた児童が、自分の作品について友だちから書かれたコメントを見て喜び、「先生！僕、クラス全員のコメントを書きたい！」と言って、真剣に書くようになった姿です。

子どもの変化を見取る先生の姿勢、大切です。



美術館での体験を生かして、見る人の立場に立って考えさせた先生の助言が生きています。

#### 報告例2 大分市立荷揚町小学校

「自分のオリジナルのランプシェードを作ろう」

ペットボトルを利用してランプシェードを作る実践。

できあがった作品を、お家の方にも鑑賞してもらうために、教室を1つ借りて4の1美術館を開きました。

看板作りにも取り組みました。

美術館の展示のされ方を思い出させると、最初はかためて展示していましたが、それぞれが間隔をあけて配置していました。「自分の作品が良く見えるのも大事だけど、お家の人が見やすいように（歩きやすいように）」という視点も入れました。

### 2、地域の芸術家を講師として招いて作品作り

#### 報告例3 中津市立三保小学校

「作って飾ろう～カレンダー作り～」

版画家の花崎宏志先生をGTとして招聘し、版画の仕方を学習し、ステレン版画のカレンダーを作る実践。

実際に花崎先生の作品を刷ってもらいました。また、講師の版木や作品を教室に展示し、鑑賞したり触れたりすることで、子どもたちも版画に興味や関心を持てるようになりました。

花崎先生が作った版を刷ってみる。貴重な体験です。



制作はとても意欲的で、行事やイベントを作品に取り上げた楽しい作品ができました。



みんなの作品を並べて鑑賞しました。休み時間になっても作品を観る子どもがいました。

「近寄ってみると、版画の色付き具合がよくわかりました。」



#### 実践例4 安岐中央小学校

「感じるままに 感じたままに 表してみよう」  
画家の廣岡茂樹先生をGTとして招き、アドバイスをいただきながら、地域の伝統文化を題材として、自分たちの二分の一成人式を祝う鬼の面の壁画を作る実践。

「美術館に見学に行っていていろいろな色を見たので、自分では好きな鬼をかくことができおもしろかったです。」

「どんどんアイデアが出てきて、下書きでは10枚も書きました。」

廣岡先生のお話を聞いて、鬼の面の絵をぬり始めました。

「家の人と一緒に、ペンキで色々な色をぬって楽しかったです。」

「友だちと自分の鬼の絵を見せ合って、友だちの鬼の絵の良いところを見つけるのは、とても参考になりました。」

「みんなの絵は、それぞれかわいかったりこわかったりして、今度からの絵を描くときの参考にしたいと思いました。」



161の鬼の面ができました。どれも、一つ一つ違う顔の鬼です。

「一人一人ちがう鬼の面が仕上がっていたのはすごいと思いました。」

「二分の一成人式で、ステージ正面に展示しました。」

遠くで見ても近くで見ても色々なお話ができそうな、素敵な壁画。

### 3、学校での鑑賞

#### 実践例5 九重町立南山田小学校

「絵を見て感じたことを伝えよう」

図工の教材[アートカード]を見て、感じたことを自由に友だちと交流することを通して、表現の面白さや感じ方の違いに気付かせる授業。

活動(1)

「アートカード」を見て感じたことを自由に友だちと話しました。

【子どもたちの感想】

ムンク『叫び』

・この人は世界の終わりみたいな顔をしている・何かを見て両手で顔を押さえて今にも倒れそう・もしかしたら、隕石が今にも落ちてくるからこんな顔をしているのかもしれない

東山魁夷『道』

・ぼやけている・まわりに草がある・田舎・怖い・空が曇り・不思議な絵・一本道で家が一軒もない・海にも見える・何も山がある・薄暗い・行ってはいけない道・道の端ががたがたしている・先に行ってもどこにもつかなそう



活動(2) 「お気に入りの一枚」を選んで自分が想像したことを伝える。

22枚の感想の出し合いや話し合いが終わったところで、自分が一番気に入った一枚を選び、その絵について想像したことを書き発表しました。

○僕はこの絵が気に入りました、理由はちょんまげのところが面白いからです。漢字が書かれているのも選んだ理由です。きれいな色で良い絵です。目が怖くてすごいです。お金を持っていると思いました。

○僕がこの絵を選んだ理由は、この人はどんな仕事をしていて何時代の人か、手が何を意味しているのか知りたいのでこの絵にしました。この人は多分「いらっしゃい、いらっしゃい。」と言って何かを安いと言って高く売りつけて、後から「何の事?」と言う詐欺師だと思います。何か嫌な目のところからそう思いました。

細部までじっくり観察して自分なりの見方をしています。想像力が豊かで発想がすごく面白い。

【活動を通して】

活動の初め、マイナス的な印象は言っただけだと思っていた児童が多かったのですが、「感じたままに話して良い」と伝えたと嬉しそうに、感じたことを素直に伝え合う姿がありました。

活動後、子どもたちから「先生、もっと他の絵はないんですか?」「他にも見たいです。」「モナリザも見たい。」と絵画に関心を持った発言があったので、図書館へ行き美術作品の本を見ることにしました。



話し合いが深まれば深まるほど絵の持つ全体的な印象へと目が向き、子どもたちの想像力が豊かになっていったようです。想像したことを友だちに伝える楽しさや美術作品への関心も持つことができました。友だちが作った作品の鑑賞とは違い、何を言っても何を感じても良く、自由に表現できる鑑賞の学習の大切さを感じました。

## 4、地域に出かけて行って鑑賞

### 実践例6 豊後大野市立犬飼小学校

「朝倉文夫記念館に行こう～

地元の作家の作品に触れよう」

県立美術館訪問後、朝倉文夫記念館を訪問し、鑑賞の授業をしました。一人一人が自由な見方をし、自分なりのとてもおもしろい感想を持っていました。

#### 最高の一瞬①

A「何でこの作品、顔がないんだろう。」

B「わからん・・・あつ、ここに説明が書いているよ。」

作家さんの思いを読むが、よくわからなかったようで担任に聞きました。

T「人間が生きていく上で、迷うことを、顔を表現しないことで表してみたいだよ。」

A「へえ、納得！こんな表し方があるんやなあ。」

B「奥が深いね。」



#### 最高の一瞬②

「ありえない！」と言いながらも気になって気になってたまらなく、その場から離れられない。何度も、作品のまわりをぐるぐる見て回っている。

どうしたのか聞いてみると「場所によって、見え方が違っておもしろい。どんな思いが込められているのだろう」と楽しそうに考えていました。



#### 最高の一瞬③

「これも作品ですか？」「すごい、作ってみたい。」

作品と同じポーズを取ってみるのも鑑賞の方法のひとつです。



### 実践例7

竹田市立豊岡小学校、  
竹田小学校、 城原小学校、  
宮城台小学校

「竹田っ子ミュージアム」

県立美術館を訪問した4校合同で、市内の作家の拠点に自分たちの作品を展示し、グループごとに会場を回り、鑑賞会をする活動。

4校合同で活動のめあてを確認。この後、班ごとにそれぞれの会場を回り、鑑賞活動をしました。





初めて足を踏み入れた歴史を感じさせる街中の建物や、作家さんの作品に興味津々。それに混じって自分たちの作品が展示されているのは不思議な感じがします。

それぞれの会場で、お互いの作品の良さなど、感じたことを自由に話し合いました。

4か所全ての会場を回った後、4校そろってふりかえりの会。

最初は恥ずかしそうにしていた子どもたちですが、活動が終わる頃にはみんな驚くほど積極的に、自分が感じたことを発表していました。

会場を提供してくれた地域の作家さんたちも、それぞれの思いを語ってくださり、たくさんのことを学んだ楽しい一日でした。



竹田にはどうして芸術家・作家の方が集まるんだろう？をテーマに調べ学習につなげて面白いですね。

## 県立美術館での鑑賞活動を活用した学習の流れ(例)

### ①美術館での鑑賞講座 (引率教員のための鑑賞講座)

- ・鑑賞のポイントを、美術館の下見も兼ねて体験。
- ※子どもになったつもりで鑑賞。(2時間程度)

### ②学校での事前学習 (オリエンテーション)

- ・美術館からのしおりを使って、美術館での過ごし方を確認をし、意欲づけをする。

### ③美術館スタッフとまわる ミュージアムツアー

【県立美術館コレクション展(所蔵品)を鑑賞】

- ・グループスタッフ(ガイド)と共に5人程度のグループで館内をまわり、鑑賞をする。(2時間程度)

- ・見る→話す→見る、を繰り返す。
- (主体的・対話的で深い学び～アクティブ・ラーニング)

### ④鑑賞後の子どもたちの主体的な学び 【探究学習】

例)美術館での体験、子どもたちの見方や感じ方の変化をとらえ、その後の授業改善に生かす。

- ・学校で作品鑑賞をする
- ・新しい技法に挑戦する
- ・地域の作家を調べる等

実践報告書の提出  
～県内の学校に還流